

言葉に込めた思い

毎年夏に行われる「社会を明るくする運動長野県作文コンテスト」では、日常生活の中で人を思いやる心や感謝の大切さを、身近な体験などから小中学生が言葉にして発表しています。本年度、コンテストで最優秀賞を受賞した明科中学校1年横内慎太郎くんの作文を紹介します。

第63回社会を明るくする運動
長野県作文コンテスト（中学校の部）

最優秀賞

君子さんの死

◎明科中学校1年 横内 慎太郎

この夏、ぼくは生まれて初めて人の「死」を体験した。通夜、納棺、焼き場、葬式と続いた数日間に人の「人生」「死」「人権」について考えた。

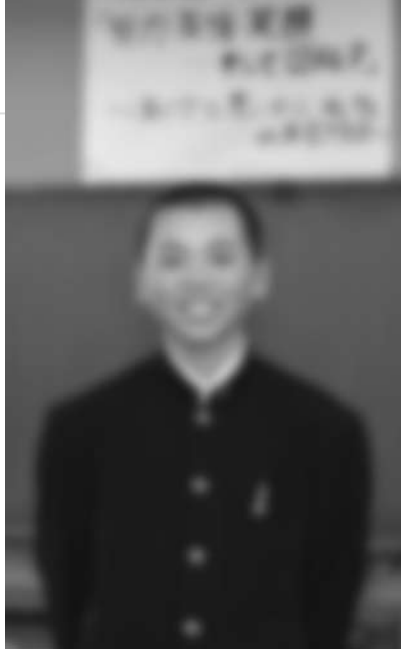
亡くなったのは、ぼくの父さんのおばに当たる君子さん。84歳のおばあさんだ。身寄りがないので、父さんが身元を引き受け喪主を務める事になった。君子さんは諏訪の施設に長く暮らし、実家のある明科にも来たことはないから、ぼくは会ったことがない。初めての対面

心はその人自身が決めること お互いが分かりあえる社会に

が「死」だったし、親しみがないから悲しみがわいてこないというのが本音だった。君子さんは、生まれつき耳が全く聞こえず、音の無い世界で暮らしてきたという。昔は、家族に障害を待った人がいると家の恥と思われ、良くない事とされ、世間に隠したりしていたと聞いた。昭和の初めに生まれた君子さんもそういう悪しき考えのもとで表社会に出ることなく大きくなったのだそうだ。君子さんは、耳が不自由ということ以外は全くぼくらと同じで健康だった。手芸がとても得意で絵もうまかったらしい。そうした特技をい

できたはずだと思う。でも、結婚をすることもなく、やがて両親も兄弟も亡くした。孤独な人生を歩んできたに違いないと思った。ぼくは棺の中の君子さんを見て、「かわいそうだな。幸せな人生ではなかっただろうね。」と言った。なぜなら、耳の聞こえない自分を想像した時に絶望を感じたからだ。相手の声が聞こえない、鳥のさえずりが聞こえない、肉の焼けるおいしい音が聞こえない、ピアノの美しい音色が聞こえない。音の無い世界なんて自分はとても考えられない。

「慎太郎はそう思ったんだね。でも、お婆さんの気持ちちは違うかもよ。」
幸せじゃなかった



自分の体験を読んだ人に共感してもらえたらと思い、作文を書いたと話す横内くん。多くの人に考えてもらえればうれしいと話してくれました。（3月5日撮影）

たということ君子さんは思っていたのか。それが分かるのは君子さんしかない。84年間の人生が幸せだったかどうか決める権利はぼくにはない。人の心は周りが決める事ではなく、その人自身が決めることだからだ。

「お婆さんの写真を見てごらん」

と言われて遺影を見た。そこには満面の笑顔の君子さんがいた。施設でお誕生会をした時のものらしい。寮母さんや仲間と楽しい時間を過ごした様子がうかがえた。ぼくが、最初に思っていたことは間違いだったかもしれない。今まで考えてもいなかったことが浮かんできた。「君子さんは音の無い世界でも幸せだったかもしれない。」写真の笑顔を見て、そう思った。そして、そうであってほしいとも願った。

体の不自由な人をかわいそうと決めつけて、必要のない善意を押しつけるのではなく、対等な立場に立って人と人との付き合いができるようになりたい。生き生きと活動したり努力することに障害も健常もない。お互いの違いを認め（数字などの表記について、原文の一部を修正しています。）

第63回社会を明るくする運動 長野県作文コンテスト

市内から14作品が入賞

社会を明るくする運動長野県推進委員会（法務省・県保護司会連合会などで構成）では、県内の小中学生を対象に、犯罪や非行のない明るい地域づくりなどをテーマにした作文コンテストを毎年行っています。今回の作文コンテストには、県内から小学校の部 5,909 作品（市内からは 813 作品）、中学校の部 3,685 作品（市内から 333 作品）の応募がありました。このうち市内から横内くんの作品をはじめ、14 作品（小学校の部 8 作品・中学校の部 6 作品）が入賞しました。入賞者は次の皆さんです。

【最優秀賞】
横内慎太郎くん（明科中1年）

【優秀賞】
三原大知くん（豊科小5年）
原田健吾くん（穂高北小6年）

【入選者】
山田湜太くん（豊科南中2年）
久保田智也くん（穂高西中1年）
唐澤明里さん（堀金中3年）
小林礼奈さん（堀金中3年）
米倉実奈さん（堀金中2年）
渡邊汐音さん（豊科南小5年）
外館幸四郎くん（穂高北小6年）
田中優衣さん（明北小6年）
関穂乃香さん（明南小6年）
塩入朋恵さん（堀金小5年）
植野千夏さん（三郷小6年）

●人権男女共同参画課でご覧いただけます。
最優秀賞と優秀賞の作品を収録した作文集が、人権男女共同参画課で閲覧できます。

図本庁舎内人権男女共同参画課
TEL 71・2000 (代) FAX 71・5000

